

指定管理業務評価シート

評価視点	評価項目	事業区分	評価指標	数値目標	指定管理者評価				図書館協議会評価	
					事業計画の概要	事業実績	実績値	評価	評価内容	評価
運営全般事項	人員配置	指定	職員配置が適切であるか。また、業務が円滑に遂行されているか。	全館合計16名体制とし、業務を円滑に遂行する。	花矢・比内・田代図書館職員が休んだときにも、他の図書館職員が代替をするなど、円滑に業務を遂行することができた。		B	妥当である	B	
	人材育成	指定	職員への教育・研修を実施し、職員の能力向上に努めているか。	より一層の職員研修に努め職員の資質向上を図る。	新型コロナウイルスの影響により各種研修会がほぼリモート開催となった。参加できるものには積極的に参加するなど、職員の資質向上に努めた。		B	妥当である	B	
						・職員研修会開催回数	12回/年			・職員研修会開催回数
			・苦情・ご意見件数	10件/年		・苦情6件/ご意見6件	12件/年			
	組織の管理体制の確立	指定	現場スタッフと管理間の意思疎通や情報共有がとられているか。また、工夫がされているか。	職員間の直接の対話を増やすと共に、各館へ回覧・配布を行い、情報の共有を図る。	施設連絡会を月次開催しているほか、職員打ち合わせや企画会議を行った。併せて、各種資料を各施設に配布・回覧する等して情報の共有に努めた。		B	妥当である	B	
	ボランティアの育成	指定	ボランティアの育成が図られているか。	ボランティアの裾野を広げるための施策を行う。	定期的に会合やおはなし会を開くなど、ボランティアの技術向上に努めた。		B	妥当である	B	
	広報・PR	指定	広報・PRをどれだけ行い、効果がどれだけあったか。	新聞等でのイベント報道に加え新着図書案内、図書館コラムの連載を継続する。また、ホームページの充実を図り多面的な発信に努める。	広報誌の発行やSNSへの掲載により、情報発信に努めた。隔週で新聞に掲載しているコラムを職員が持ち回りで執筆し、利用者からも好評を得ている。		B	妥当である	B	
						・広報大館への掲載回数	12回/年			・広報大館への掲載回数
		・広報紙の発行回数	36回/年	・広報紙の発行回数	36回/年					
施設設備の維持管理	指定	施設維持管理が良好に行われているか。また、清掃が行き届いているか。	点検や巡回の励行はもとより、担当部課との情報共有に努め、施設設備の長寿化及び更新等に関する交渉を継続する。	日常点検や定期点検の他、館内巡回でも設備備品の不具合等に留意し、可能なものは迅速に必要な措置を講じた。破損・事故については市の担当課へ随時報告するとともに、改修の要望を行った。		B	妥当である	B		
危機管理体制の確立	指定	危機管理に関する対応方法が職員に周知されていて、緊急時の連絡体系が整っているか。	緊急時の対応や消防設備について理解し、設備の管理を行う。	消防訓練を行い、利用者の誘導の手順等を職員全員で確認して、緊急時に迅速に対応できるよう務めた。		B	妥当である	B		
経費の適正な執行	指定	経費の効果的、効率的な執行がなされ、その目標が達成されているか。	利用者サービス等に影響が出ない様、効率的な経費削減に努める。	職員が経費節減を意識・徹底して職務に努めたが、光熱水費及び燃料費が物価高騰により増加傾向となったため、今後とも経費節減を達成するよう務める。		B	妥当である	B		
					対直営時	・人件費外の経費削減率			- %以上	・人件費外の経費削減率(対R3)
		・消費電力削減率	- %以上	・消費電力削減率(対R3)	1.7%					
		・水道量削減率	- %以上	・水道量削減率(対R3)	1.2%					
		・燃料削減率	- %以上	・燃料削減率(対R3)	△20.0%					
館長のリーダーシップ	指定	館長がリーダーシップを発揮して運営を行っているか。	職員間の相互理解を深め、信頼関係の構築に取り組む。	各職員との対話や全体ミーティング等で意思疎通を図った他、今まで培ってきた経験と実績による他団体との信頼関係を継続して構築する等、リーダーシップを発揮して健全な運営を行った。		A	評価基準Bの範囲である	B		

市の総合評価

所管課コメント	判定	施設連絡会の月次開催や職員の代替対応など、栗盛記念図書館と他3館との情報共有・連携に努めることで円滑な事業運営を実施していること。また、コロナ禍における原油価格等の高騰で光熱費にも大きな影響を与える中、利用者サービスの質は落とさず、職員による徹底した経費節減に努めており、評価に値する。
---------	----	---

指定管理業務評価シート

評価視点	評価項目	事業区分	評価指標	数値目標	指定管理者評価				図書館協議会評価	
					事業計画の概要	事業実績	実績値	評価	評価内容	評価
基本的サービス	個人利用者のサービス (各館・移動図書館車)	指定	利用者状況について、前年度と比較し増加傾向にあるか。	各館ともに市民が利用しやすい環境を整備するとともに、図書館の事業活動について周知を図る。	新型コロナウイルスの感染が落ち着き、外出する機会が増えたことにより、読書時間が減った影響か、来館者数が昨年度より6,678人の減、貸出利用者数も2,542人減少した。利用者が来館したくなるよう発信に務める。	C	評価基準Bの範囲である	B		
			・来館者数		137,500人/年				・来館者数	130,449人/年
			・貸出利用者数		48,000人/年				・貸出利用者数	45,307人/年
			・新規登録者数		730人/年				・新規登録者数	604人/年
・貸出冊数	208,000/年	・貸出冊数	196,960冊/年							
・予約受付件数	27,100件/年	・予約受付件数	25,154件/年							
蔵書構築 (各館・移動図書館車)	指定	各館の選書方針を定め、4館それぞれ特色を持った計画とされているか。また、図書選定及び除籍が、仕様書に規定する選定組織で行なわれているか。	各館の選書方針を定め、4館それぞれの役割を受け持つことで図書館全体での蔵書の充実を図る。除籍については指定管理要項の規定に則り、過不足なく行う。	予算が限られる中で、各館とも選書方針に従って効率的に資料の購入に努めた。除籍については閉架資料を見直し、廃棄業務取扱要領の規定に従って廃棄を行った。購入冊数は減少しているものの購入金額は仕様書に指定されている額を満たしている。	B	妥当である	B			
		・購入冊数		4,500冊/年				・購入冊数	4,095冊/年	
利用者に提供されるサービスの品質	指定	職員が、一般図書のほか自館所蔵資料に精通するため努力しているか。	複数の職員が共同で担当する等、図書館サービスへの理解と意識を高める。	職員間での情報共有を図るとともに、書架整理作業を日常的に行うことで自館資料の把握に努めた。	B	妥当である	B			
利用者に提供されるサービスの迅速性及び的確性	指定	市民ニーズを汲み取って、時代の変化にすばやく対応し、市民のための具体的な有効な図書館サービスに結びつける努力が行なわれているか。	来館する利用者だけでなく、広く市民に目を向けた啓発・啓蒙活動にも力を注ぐ。	利用者アンケートでは職員の対応について良い評価が多かった。アンケートやご意見箱により、利用者の要望を汲み上げ、可能な限り対応した。	B	妥当である	B			

市の総合評価

所管課コメント	判定	上半期は新型コロナウイルス感染拡大による自粛ムードの再来、下半期は感染が落ち着いたことによる外出ムードの高まりなど、令和4年度の図書館来館者数及び利用者数にも影響が出ている一方、一人当たりの貸出冊数は昨年並みであり、各館の選書方針による蔵書が適切であること。また、常日頃図書館利用者へのサービスが積極的に行われ、利用者との信頼関係構築に努めていることは、一定の評価に値する。今後も引き続き効率的な選書を行っていただきたい。
---------	----	---

指定管理業務評価シート

評価視点	評価項目	事業区分	評価指標	数値目標	指定管理者評価				図書館協議会評価		
					事業計画の概要	事業実績	実績値	評価	評価内容	評価	
充実・推進を図るサービス	事業実施（各館）	指定	仕様書に規定する企画業務が遂行されているか。また、利用者サービスを向上させる事業が提案されているか。	予算と人員を効果的に活用し、指定管理期間を通して年毎にサービスの向上に努める。	子どもゆめ基金申請事業は取り下げざるを得なかったが、図書館予算にて実施することができた。また、図書館まつりを行ったり、絵本ライブを開催するなど魅力ある事業を実施した。	A	評価基準Bの範囲である	B			
			・事業実施回数						27回/年	・事業実施回数	28回/年
	学校（保育園・児童館）連携（各館）	指定	図書館サービスの一つとして、教職員に認識され、また利用されるよう取組んでいるか。	専任の職員と各館の責任者を中心に、市内の児童・生徒の読書環境づくりに積極的に関与・協力していく。	学校図書館の整備に司書を派遣し、児童生徒の読書環境を整える支援を行った。また、児童に対し、図書室の利用指導や読み聞かせなども行い、児童の読書推進に寄与した。	A	評価基準Bの範囲である	B			
			・学校連携事業実施回数						3回/年	・学校連携事業実施回数	3回/年
			・学校図書館支援（学校数）						10校/年	・学校図書館支援（学校数）	10校/年
	レファレンスサービス（各館）	指定	レファレンスサービスの充実について、成果が上がっているか。	利用者に対するレファレンスサービスの充実に努める。	利用者から問い合わせがあった場合に答えるだけでなく、館内で何かを探している利用者や、必要と思われる利用者に積極的に声がけをするなど、レファレンスサービスの充実に努めた。	B	妥当である	B			
	リクエストサービス（各館）	指定	リクエストサービスの充実で、利用者に結びついているか。	市民の読書活動に寄与するため、要望に対応する。	限られた予算を活用し、寄せられた要望に可能な限り対応した。	B	妥当である	B			
	ボランティアなどとの協働事業（各館）	指定	図書館事業や読書活動に関わるボランティアを養成・支援する事業を企画実施しているか。	ボランティア団体に対する支援や共同事業の開催を通して、共益的なパートナーシップの構築に努める。	図書館後援会や、各読み聞かせ団体と協力、連携を図りながら、コロナ禍でも開催可能と判断した事業を開催した。	B	妥当である	B			
・おはなし会開催回数			60回/年						・おはなし会開催回数	53回/年	
・おはなし会参加者数			1,000人/年						・おはなし会参加者数	713人/年	
・ボランティア図書館利用回数	75回/年	・ボランティア図書館利用回数	42回/年								
相互貸借サービス（各館）	指定	相互貸借サービスを安定的に運営し、利用者の増加に結び付けているか。	資料の要望や情報サービスの質を向上させるため、図書館の相互協力を活用する。	相互貸借の受付件数は、前年比91%、175件の減となった。利用者に相互貸借の活用の周知に努める。	C	評価基準Bの範囲である	B				
特色を持った図書館づくり（各館）	指定	各館、地区の特色にあわせた個性ある地域図書館を具体化する事業計画が立案されているか。	地域の資料の収集に努めるとともに、所蔵している資料の紹介や活用を図る。	真崎文庫の所蔵品を展示するとともに、県立博物館との連携によるギャラリートークを行うなど、収蔵している資料についての周知に努めた。	B	妥当である	B				

市の総合評価

所管課コメント	判定	当初予定していた子どもゆめ基金を活用した事業について、条件等の不一致により申請を取り下げることとなり、全体事業数の減少が見込まれたが、限られた予算と内容を工夫することで事業を実施したこと。また、学校内における子どもたちの読書活動を推進するため、年々経年劣化が進む学校図書館の環境を一定の状態に維持・整備していることは評価に値する。今後も継続して努めていただきたい。
---------	----	--

判定

	項目数	S	A	B	C	D
全般	9			9		
基本	4			4		
充実・推進	7			7		
(点数換算)		0	0	140	0	0
計	20	140点				
判定(点数/項目数)		7			B	
人口減少の中、基本的サービスの評価指標である来館者数や新規登録者数の増加は難しく、評価指標の見直しが必要と思われます。						

項目	S	A	B	C	D
点数換算係数	12	10	7	5	3

点数	10超	7超 10以下	5超 7以下	3超 5以下	0超 3以下
判定	S	A	B	C	D

B : 「あらかじめ定められた事業計画及び目標通りの成果をあげた」